

ている。上下水道局からは、窒素やリンを多く含む処理水などを提供することとしており、市の費用負担はない。

〔要望〕 実証圃場の現地を確認したが、現状では240平方メートルの小さな露地栽培であり、もう少し拡大できないかと思う。佐賀市は農業が盛んなところであるため、このような取り組みがどんどん地域に貢献していけばよいと思っただけ、よろしく願いたい。

〔答弁〕 現在は、約240平方メートルで3種類の食物を6つの区画に分類して実証実験が行われている。ユーグレナ社は東京にあり、農業の経験はないが様々な化学の知識や知見を有しているため、地元農家を紹介して、マッチングを行いなから取り組んでいる最中である。今後、カラハリスイカやタマネギなどを栽培していく予定であり、いろんな品種に拡大すれば、当然、耕作面積も広がっていくことになると考えている。

〔意見〕 地域農産物も特色を出さないと売れない時代になってきている。この取り組みを一つの契機として、ぜひとも佐賀市の農業が発展するように願いたい。

## 佐賀駅周辺整備調査 特別委員会

3月14日開催

《現地視察》佐賀駅南口周辺で開催された社会実験「さが駅前うまいもん市場」の現地視察を実施。

さが駅前うまいもん市場視察の様子

(物販、パネルディスカッションの様子)



5月14日開催

〔説明〕 佐賀駅南口暫定駐車場の運営状況については、今年2月以降駐車料金収入が減少に転じている。障がい者用駐車スペースについて、当初設置した5台分と増設した2台分が分散していることについて、利便性等の再検討を行ったが、現状のままの場合と1カ所に集約した場合とでは、それぞれに課題があり、運営期間が残り1年未満であることから、現状のまま運営することとした。

佐賀駅前広場の整備については、北口広場の工事が完了し、5月10日から供用を開始した。南口広場の整備工事は、広場を東西に分割して西側から順次行うこととしており、令和4年11月30日までを予定している。

市道三溝線の整備については、現在、道路改良工事を行っている。

県道佐賀停車場線の道路空間の検討については、社会実験として、3月12日から14日までの3日間「さが駅前うまいもん市場」を開催した。来場者に対しアンケート調査を実施し、結果については、佐賀県にもその内容を提供し、県道整備の参考にしよう求めている。

コムボックス来店者の動向については、Aコープのレジ通過者の数値で1日あたり2,300人程度が利用している

ことが明らかになっている。また、3月1日から7日まで1階の共用通路で実施したアンケート調査の回答から、当該施設が食料品や日用品の買い物といった日常生活を支える施設になっていることがうかがえる。

〔質問〕 社会実験でのアンケート調査結果を受けて、市として今後どのように取り組むのか。

〔答弁〕 県との協議で、道路の整備は県が行い、歩道拡幅後の活用策の検討等は市が行うよう役割分担しており、結果を県に伝え、整備計画に反映できるように協議したい。

〔質問〕 社会実験を再度行う予定はあるのか。

〔答弁〕 市として行う予定はないが、県主体で交通の影響に関する社会実験が行われる予定である。車線を減少させることで生み出されるスペースの活用について県と協議したい。

〔意見〕 南口広場の整備がある程度進んだ段階で改めて社会実験を行うことで、整備完了後の南口広場を市民に広くアピールできると考えられるので、検討してもらいたい。

# 水害対策調査特別委員会

3月22日開催

〔説明〕 樋門管理の体系づくりとして、

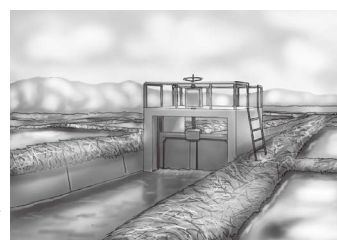
毎年、出水期前に樋門操作に係る関係者会議を開催し、連絡体制や樋門操作時の注意事項等の確認を行っている。本市の平野部では、水環境の保全やかんがい用水の確保のため、地域の水は通常、せき等で高い水位を保っておく必要があるが、大雨時は速やかに施設操作を開始して排水を促進している。なお、事前排水後に雨が降らず、農業用水が確保できない場合は、佐賀土地改良区へ北山ダムや筑後川からの供給を依頼している。

次に保水機能について、調整池に溜めた水は、下流域の水位が下がってから流すため、河川上流域に設置すればその効果を発揮するが、下流域ではメリットが小さく、効果の発揮は限定的となる。また、田んぼダムについてモデル地区での実施を検討したが、地形的、水管理等の問題が多く、モデル地区の選定には至らなかった。国が多面的機能支払交付金で田んぼダムの取り組みへの加算措置創設の方針を示しており、今後、活動組織と勉強会を行い、協議したい。

住民への避難指示に関して、市設置の27台の防災カメラのうち6台を常時ホームページで公開し、残り21台は、大雨注意報が発令され、市が災害体制を配備した場合に追加で公開している。また、ツイッターやフェイスブックなどで市の緊急情報を発信し、さらに、Lアラートにより、NHKやNBCラジオなど全国の情報媒体での情報発信も可能にしている。

〔質問〕 市管轄の樋門操作を依頼している人と、各農家で樋門操作をしている人の連携が図れないと、抜本的な排水対策にはならないのではないか。校区ごとや流域ごとに連携を図る組織を立ち上げる必要があると思うが、現在の樋門操作人にそれをどう伝えているのか。

〔答弁〕 多面的機能支払交付金の中の防災・減災力の強化で、今年から農家で広域組織を立ち上げて、チームで樋門操作方法などについて話し合いをしている。樋門操作の連携についても、今後ここで協議できればと考えている。一方で、大きな樋門は河川砂防課で直接操作するが、周辺の小さな樋門を管理する農家は地域の水事情に精通されており、事前に体系立てて連携するまでには至っていない。



〔質問〕 樋門操作人は高齢化が進んでおり、今後、世代交代が進めば、操作の流れ等が分からない人が増えると思われるが、現在の操作人の人数は今後も必要か。

〔答弁〕 施設自体は減らないため今後必要な人数である。世代交代がうまくいかず、排水操作ができない地区は市直営で行うこともあるが、できるだけ地元でしていたらいいように、多面的機能支払交付金における広域組織で話し合いができるような環境づくりに取り組みたい。

〔質問〕 住民が大雨時に現地に行かずに水位が分かるよう色付けした標尺などを設置し、防災カメラで見られるようにすべきではないか。

〔答弁〕 県管理の水位周知河川では、標尺等で氾濫危険水位などを色分けして表示し、カメラで見られる箇所もある。一方、市管理の小さな水路は大雨ですぐ溢れ出すところもあり設置の判断が難しいが、比較的大きな河川は対応を検討したい。

## 令和2年度の政務活動費の使途・実績を公開しました

政務活動費は、議員の調査研究に必要な経費の一部として会派（準会派を含む）に交付しています。佐賀市議会ホームページに年度ごとの実績関係書類を自主公開しています。

トップページにある「議会を知りたい」から「政務活動費」をご覧ください。

なお、平成28年度から令和元年度までの実績もご覧いただけます。



議会ホームページ

